



Japan Foundation for
Regional Art-Activities

地域創造レター

News Letter to Arts Crew

9月号—No.352

2024.8.25

(毎月1回25日発行)

【丹柄茶(たんがらちゃ)】丹柄で染めた黄味がかった赤茶色。

丹柄は奄美大島や沖縄で見られるマングローブ(熱帯・亜熱帯地域の汽水域に生育している植物の総称)の仲間であるオヒルギの別名。樹皮がタンニンを多く含み、抗菌や防腐効果の高い染料として用いられてきた。

●目次／contents

今月のニュース..... 2

「地域創造フェスティバル2024」報告

財団からのお知らせ..... 4

「公立美術館共同巡回展企画支援事業」参加館募集／市町村長特別セミナー「地域経営塾」募集開始／自治総合センター「地域の芸術環境づくり助成事業」募集開始／令和6年度「リージョナルシアター事業」スタート／2024年度「地域の公立文化施設実態調査」ご協力のお願い／特別寄稿 ビューポイントNo.16掲載について／公共ホール求人情報 掲載お申し込み方法

今月の情報..... 7

地域通信／特集 アートプロジェクト・芸術祭

今月のレポート..... 12

愛知県長久手市 長久手市文化の家「おんぱく2024～真夏のおんぱく大縁日～」

発行元：一般財団法人地域創造
〒107-0052 東京都港区赤坂2-9-11
オリックス赤坂2丁目ビル 9F
Tel. 03-5573-4093 Fax. 03-5573-4060
URL: <https://www.jafra.or.jp/>

●地域創造フェスティバル2024

アウトリーチへの熱意が溢れたシンポジウムと プレゼンテーション

地域創造フェス ティバル2024 報告

2024年7月29日～31日

写真左上：シンポジウム「アウトリーチから改めて考える文化芸術の役割」

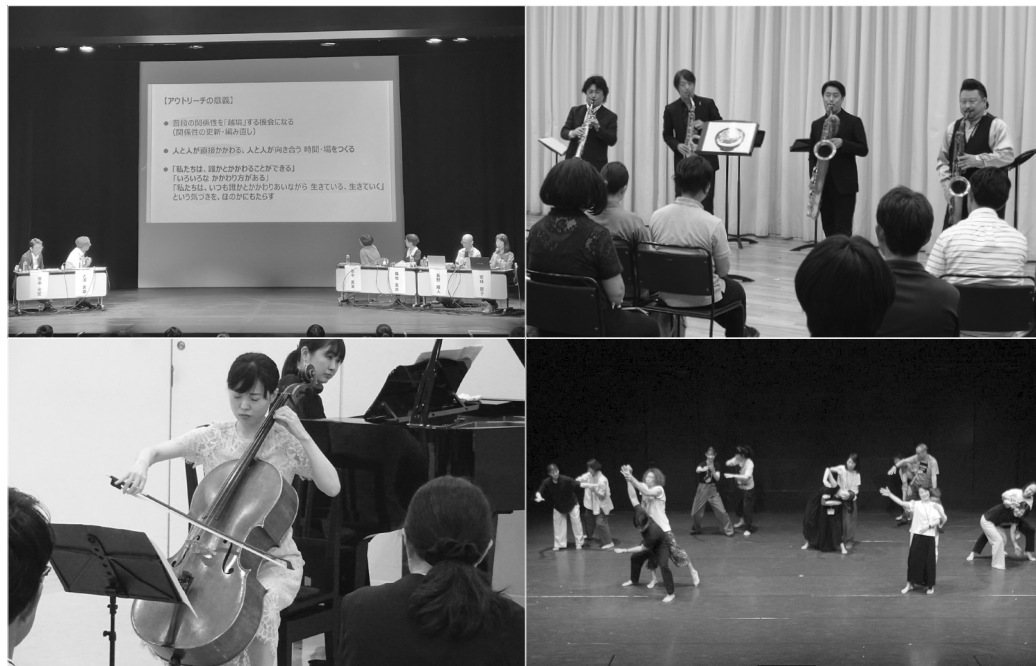
右上：おんかつ支援プレゼンテーション
Quartet SPIRITUS（サクソフォン四重奏）

左下：おんかつ支援プレゼンテーション
加藤文枝さん（チェロ）

右下：ダン活プレゼンテーション
黒須育海さん

●地域創造フェスティバル

公立ホールや自治体が事業を企画・実施する上で参考となる情報を提供することを目的に、地域創造が開催。公共ホール音楽活性化支援事業の登録アーティスト、公共ホール現代ダンス活性化事業の登録アーティストによる実演（プレゼンテーション）、シンポジウム、セミナーなどを実施するとともに、財団事業の説明会を実施。多数のアーティストや全国のホール・自治体関係者、専門家が一堂に集い、交流する貴重なプラットフォームとなっている。会期中に都道府県・政令指定都市文化行政担当課長会議を同時開催。



多くのアーティスト・公立ホール・自治体職員の交流の場となっている地域創造フェスティバルが7月29日から31日まで東京芸術劇場で開催されました。おんかつ支援登録アーティスト54組によるプレゼンやシンポジウムに加え、2025・2026年度公共ホール現代ダンス活性化事業（ダン活）登録アーティスト7組によるプレゼンテーションや事業担当者と各種事業のコーディネーターが意見を交わすテーブルトーク、都道府県・政令指定都市文化行政担当課長会議などが行われ、活気に溢れたフェスティバルとなりました。

●シンポジウムは「アウトリーチから改めて考える文化芸術の役割」

地域創造では、1998年から「公共ホール音楽活性化事業（おんかつ）」に取り組み、演奏家が学校などに出向くアウトリーチ事業を推進してきました。一昨年度から2カ年にわたりその成果や効果を検証する調査研究を行っており、報告書「アウトリーチから考える文化芸術の役割」（令和6年3月）をとりまとめています（<https://www.jafra.or.jp/library/report/2023/index.html>）。

昨年度の調査ではアウトリーチを実践してきたアーティストやコーディネーターを対象にアンケートとグループインタビューを行い、シンポジウムではその主な内容を紹介するとともに、調査に協力した田中真実さん（認定NPO法人STスポット横浜副理事長・事務局長）、隅地茉歩さん（振付家・ダンサー／セレノグラフィカ代表）、長野隆人さん（いわき芸術文化交流館アリオス副館長・支配人）、若林朋子さん（プロジェクト・コーディネーター／立教大学大学院社会デザイン研究科特任教授）によるパネルディスカッションが行われました。

田中さんは過去の調査研究にふれながら、「芸術普及（アウトリーチ）活動は多くの市民との関係を構築することができる。まちづくり、人づくりに繋がる、これからの地域文化施設の鍵を握る事業だ」と発言。福祉の関係者から指摘された「福祉は困りごとから人に出会うが、文化芸術は好きなこと、やってみたいことから出会うことができる」という言葉にみんな大きく頷いていました。

また、2004年に初めてアウトリーチの現場に立ってから現在までにおよそ800カ所で実践したという隅地さんは、「アウトリーチをしたか

▼— 今月のニュース

地域創造からのニュースを毎月掲載します

ら不登校がなくなる、いじめがなくなるわけではない。成果が目的化してしまうと、他者の身体を支配することにつながりかねない。現場で起きたことをありのままに受け止めていければ」と話し、課題解決思考になることに注意を促していました。

長野さんは、生活支援型アートセンターとして「生まれる前から墓場まで、切れ目なき芸術支援」を掲げているアリオスの多彩な取り組みについて紹介。また、若林さんは「深いレベルのコミュニケーション」をもたらすアウトリーチについて整理していました。

シンポジウムもそうでしたが、報告書にも「アウトリーチによって文化芸術の可能性を再認識し、自分の仕事に誇りを持つようになった」といった熱い発言が並び、参加者を大いに勇気づける時間となりました。

●アーティスト計61組がプレゼン

おんかつ支援の登録アーティストは、現在、計113組に上ります。今回のフェスティバルでは、その中から54組が参加しました。

サクソフォン4重奏は4組がプレゼンに参加しましたが、今年20周年を迎えるQuartet SPIRITUSは、カツ井(ご飯=バリトン、トンカツ=ソプラノ、玉ねぎ=アルト、玉子=テナー)に例えてアンサンブルの仕組みを小学生に紹介するプログラムを実演。「サククス4重奏のために書かれた曲を演奏することを大切にしている」と超絶技巧のベルノーの「四重奏曲」を取り上げ、その緻密なアンサンブルと技術の高さで、サクソフォン4重奏の可能性を最大限に引き出す演奏でした。

閑喜弦介さん(クラシック・ギター)は図形譜を配布し、「音楽は聴くだけでなく、もっと能動的に参加するものだと思う。楽器が弾けなくても、楽譜が読めなくてもこれは演奏できる」と参加者と即興演奏しました。「チェロ1本で太夫と三味線を演じるひとり劇場のような曲」として黛敏郎の『BUNRAKU』を豊かに演奏した加藤文枝さん(チェロ)、着物の違いから8・8・8・6のリズムをもつ琉歌についてまで沖縄

文化のエッセンスを紹介した棚原健太さん(歌三線)、ピアニストの中川賢一さんと組んでマリンバの能力を多彩に引き出した宮本妥子さん(打楽器・マリンバ)、リストが編曲した『魔王』(シューベルトの歌曲)で参加者の心を驚掴みにした今田篤さん(ピアノ)など、多彩なパフォーマンスが続きました。

ダン活プレゼンテーションでは、2025・2026年度登録アーティストがプレゼン。登録アーティスト経験者である井田亜彩実さん、浅井信好さん、康本雅子さんに対し、岩渕貞太さん、Von・noズ、橋本真那さん、黒須育海さんが初めてプレゼンに臨みました。

岩渕さんは、舞踏や武術の影響を受けているという身体観と動きをつくり出すメソッドを論理的に説明。「伸びをして気持ちがいいところを見つけたら、他に気持ちがいいところがないか探しながら、ずっと気持ちがいい状態を続ける」という“網状身体”のワークを参加者が実際に体感。また、大学時代の同級生2人が結成したVon・noズはレパートリー作品の『不在をうめる』のワンシーンを披露。台湾で古典舞踊を学んでいる橋本さんは台湾の舞扇を使ったワークを行いました。特別支援学校で10年間仕事をした経験をもつ黒須育海さんの身体遊びのワークなど、それぞれ全く異なるアプローチで自らの身体表現についてアピールしていました。

※

財団の事業説明では地域の文化・芸術活動助成事業に新設された創造プログラム(地域課題対処特別分)^(*)の紹介なども行われ、関心を集めていました。なお来年度は、東京芸術劇場が施設更新工事のため一時休館となるため、会場を神奈川県茅ヶ崎市民文化会館に移して8月4日～6日に開催する予定です。奮ってご参加ください。

^{*}創造プログラム(地域課題対処特別分)

文化芸術により地域の課題に向き合い、解決に向けて取り組もうとするアウトリーチ、ワークショップ等を行う事業(2年もしくは3年間の助成。ただし、各年度の申請を審査した上で決定)に対して助成する事業。

●地域創造フェスティバル2024プログラム概要

【1日目(7月29日)】

◎おんかつ支援プレゼンテーション
【ピアノ】奈良希愛 【弦楽器】甲斐摩耶、早稲田桜子(ヴァイオリン)/海野幹雄、奥田なな子、加藤文枝(チェロ) 【管楽器】吉岡次郎(フルート)/高見信行(トランペット)/加藤直明(トロンボーン) 【声楽】小林厚子(ソプラノ)/西村悟(テノール) 【打楽器】大熊理津子(マリンバ)/新野将之(パーカッション) 【その他】閑喜弦介(クラシック・ギター)/棚原健太(歌三線) 【アンサンブル】カメハ(パーカッションデュオ)/Quartet SPIRITUS、Quatuor B(サクソフォン四重奏)

【2日目(7月30日)】

◎シンポジウム「アウトリーチから改めて考える文化芸術の役割」(令和5年度調査研究事業報告)
吉本光宏、大澤寅雄、田中真実、隅地菜歩、長野隆人、若林朋子

◎おんかつ支援プレゼンテーション
【ピアノ】酒井有彩、佐々木京子、高橋ドレミ
【弦楽器】北島佳奈、神谷未穂(ヴァイオリン)
【管楽器】森岡有裕子(フルート)/田中拓也(サクソフォン)/喜名雅(チューバ) 【声楽】上田純子、梅津碧、乗松恵美(ソプラノ)/吉川健一(バリトン) 【打楽器】野尻小矢佳(パーカッション&ボイス) 【その他】松尾俊介(クラシック・ギター)/藤重奈那子(箏・地歌三味線)/山本奈央(オカリナ) 【アンサンブル】Dual KOTO×KOTO(箏デュオ)/泉真由×松田弦(フルート&クラシック・ギター)

◎ダン活プレゼンテーション

井田亜彩実、岩渕貞太、Von・noズ、橋本真那、黒須育海、浅井信好、康本雅子

【3日目(7月31日)】

◎Jafra テーブルトーク 2024

①地域資源の活用、地域課題(ファシリテーター:有門正太郎)、②変遷する劇場の役割、インリーチ・アウトリーチ(福田修志)、③アウトリーチ事業の継続的な実施のために—成功事例からみる、理解を得るために必要なこと—(菊地俊孝)、④おんかつ事業から広がる可能性—地域とのつながりの種まきとして—(佐藤良子)、⑤伝統楽器を用いた事業、どうやらできる?(伊藤由貴子)、⑥アウトリーチ活動における邦楽の強みとは?(谷垣内和子)

◎助成・事業説明会

◎おんかつ支援プレゼンテーション
【ピアノ】新崎誠実、今田篤、岩崎洵奈、今野尚美 【弦楽器】石上真由子、坂口昌優、高橋和歌(ヴァイオリン) 【管楽器】荒川洋(フルート)/田村真寛(サクソフォン) 【声楽】竹多倫子、渡邊史(ソプラノ)/ヴィタリ・ユシュマノフ(バリトン) 【打楽器】宮本妥子(打楽器・マリンバ) 【その他】福島青衣子(ハープ) 【アンサンブル】デュエットうかなえ&ゆかり(ピアノデュオ)/ピアノトリオ・ミューゼ(ピアノトリオ)/アーバンサクソフォンカルテット、Mod tro Saxophone Ensemble(サクソフォン四重奏)

*都道府県・政令指定都市文化行政担当課長会議を同時開催(7月30日 13:30～15:30/シアターウエスト)

*各日、来場者が交流する「情報交換会」を開催(18:50～19:50/シアターウエスト)

財団からのお知らせ

●公立美術館共同巡回展企画支援事業
に関する問い合わせ
総務部 桑山
Tel. 03-5573-4054

●全国市町村国際文化研修所(JIAM)
「市町村長特別セミナー『地域経営塾』」
[研修日程]2024年11月7日(木)、8日
(金)
[会場]全国市町村国際文化研修所
(JIAM)
〒520-0106 滋賀県大津市唐崎2-13-1
[申込締切]9月25日(水)
[主催・問い合わせ]
(公財)全国市町村研修財団 全国市町村
国際文化研修所(JIAM)教務部
Tel. 077-578-5932

●「公立美術館共同巡回展企画支援事業」 実施館が巡回展参加館を募集

本年度の「公立美術館共同巡回展企画支援事業」として、八幡浜市美術館（愛媛県八幡浜市）と新見美術館（岡山県新見市）が、「女性作家の先駆者たち～荏崎大村美術館所蔵作品を中心に～（仮称）」展の企画検討作業を行っています。現在両館は、令和7年度準備・8年度開催の「公立美術館共同巡回展開催助成事業（2か年プログラム）」への申請に向けて、参加館を募集しています。以下の巡回展実施にご興味のある館は、担当学芸員へ直接お問い合わせください。なお、申請準備が必要となりますので、9月末頃を目安にご連絡をお願いいたします。

◎八幡浜市美術館 Tel. 0894-21-3335

担当：井上千秋

◎「女性作家の先駆者たち～荏崎大村美術館 所蔵作品を中心に～（仮称）」展

荏崎大村美術館は同市出身でノーベル生理学・医学賞を受賞（2015年）した大村智博士が長年にわたり蒐集してきた美術品を展示公開するため、生家の近くに自費で建設した美術館です。開館は2007年で、翌08年に作品を含めた施設を荏崎市に寄贈しています。

館内には約4,000点以上の絵画や陶磁器などを所蔵しており、なかでも集中的に蒐集しているのが、大村館長が名誉理事長を務めている女子美術大学の卒業生を中心とした女性作家の作品。女性への美術教育が顧みられない時代のなかで、女性が美術を学ぶ場を設け、ひいてはその自立や社会的地位の向上に貢献することを創立の趣旨とし、1900（明治33）年に開校したのが女子美術大学（前身女子美術学校）であることを考えると、ここで学んだ女子学生たちは、現代女性作家の先駆者と言っても過言ではありません。

全国でも女性作家の作品を積極的に蒐集している美術館は珍しく、本企画では同館の作品を核として、参加館が所蔵する作品、作家の代表作などを各所から借用し、内容に厚みを持たせたいと考えているところです。そして、現代の美術館に所蔵されている作品の比率を見ると圧倒的に女性作家の作品が少ないことへの問題提起と、今後の参加館における作品収集方針の方向性を考える契機ともなれば幸いです。

●全国市町村国際文化研修所(JIAM)「市町村長特別セミナー『地域経営塾』」の募集開始

全国の市区町村長・副市区町村長および部長級職員を対象に、全国市町村国際文化研修所(JIAM)との共催により「市町村長特別セミナー『地域経営塾』」を実施します。この事業は、自治体の長または幹部職員が知っておくべき地域づくりにおける文化・芸術の役割等を学んでいただくことを目的としているものです。

セミナーは2日間にわたって行われ、1日目に、愛知大学文学部教授・吉野さつきさんによる講演「だれも取り残されない地域づくりのために ～障害のある人とアートの事例から考える～」を予定しています。また、地域創造の登録アーティスト・坂口昌優さん（ヴァイオリン）によるミニコンサートでは、地域創造の事業で行っている、生の音楽の素晴らしさや楽しさを多くの人たちに届けるアウトリーチを体験していただきます。

研修の詳細および参加方法は、JIAMホームページ(<https://www.jiam.jp>)をご確認ください。

●（一財）自治総合センター「地域の芸術環境づくり助成事業」の募集開始

一般財団法人自治総合センターでは、宝くじの社会貢献広報事業であるコミュニティ助成事業の一環として、公立文化施設の利活用の推進や企画制作能力の向上等を図るため、市（区）町村（政令指定都市を除く）に対する「地域の芸術環境づくり助成事業」を実施しています。

このたび令和7（2025）年度事業の募集が開始されましたのでお知らせします。締切は各都道府県の文化担当課へお問い合わせください。

【問い合わせ】一般財団法人自治総合センター

担当：飯島 Tel. 03-3504-0841

※事業の詳細につきましては、（一財）自治総合センターのウェブサイトをご覧ください。<https://www.jichi-sogo.jp/>

※都道府県から（一財）自治総合センターへの締切は11月29日（金）必着。

▼財団からのお知らせ

地域創造からのお知らせを毎月掲載します

●令和6年度「リージョナルシアター事業」がスタート

演出家等の演劇の表現者を公共ホールに派遣し、ホール職員等と共にアウトリーチやワークショップを企画・実施するリージョナルシアター事業。この事業では、演劇の幅広い可能性について、ホール職員等の理解を深め、演劇の手法を用いて地域活性化の試みを後押しすることを目的としています。今年度は8団体が参加し、まちの規模もミッションもさまざまな中で、担当者が派遣アーティストと対話を重ねながら企画した事業が、順次スタートしました。

兵庫県西宮市(西宮市民会館)では、地元の中高演劇部に向けたワークショップや、市内NPO法人と協働したワークショップ、不登校児童の支援施設職員に向けたインリーチを実施しました。NPO法人なごみが運営し、学びを通して人や居場所との出会いを創造するまちの学校「まちがく」との共同主催によるワークショップでは、ごまのはえさんによる戯曲講座を行いました。受講生たちは、台詞だけでなく書きでも登場人物の関係性や感情を表せることなどを学び、最後には、昔の西宮の写真を基に戯曲を創作するという課題が出されました。提出された作品は講師からのフィードバックがあるほか、数点がリーディング劇として上演される予定です。西宮市文化振興財団の田北篤史さんは「以前から、自分たちと同じように地域活性のために活動している団体と協働したいと思っていた。リージョナルをきっかけに繋がりが出来たので、今後どのようにコラボできるか考えていきたい」と話していました。

島根県安来市(安来市総合文化ホール アルテピア)では、小学校でのアウトリーチ、親子を対象とした公募ワークショップ、児童養護施設でのアウトリーチなどを行いました。小学校のアウトリーチは2・3年生を対象に実施。子どもたちにあまり馴染みのない「劇作家」「演出家」「俳優」の

仕事を、サイコロを使ったお芝居仕立てで紹介したあと、アシスタントの俳優が繰り返すひとつの動きをきっかけにして、グループでワンシーンをつくってみました。動きが何に見えるのか想像力をふくらませてアイデアを出し合ううちに、短い物語が出来上がるグループも。想像することの楽しさや、みんなで協力することで新たな発想が生まれる面白さを感じることができました。先生からは「普段はおとなしい子も、自分を思い切り出せて満足していたと思う」との感想がありました。

熊本県宇土市(宇土市民会館)では、宇土市民会館に中学校が隣接しているという特徴を生かし、学校ではなく、ホールの舞台と客席を余すことなく使ったワークショップを実施しました。ワークショップは、全校生徒約840人のうち、10月に行われる学習発表会に向けて劇の練習に取り組んでいる1～3年生のそれぞれ約30人と、特別支援学級の生徒を対象に4回行い、合計101人が参加しました。イスに鬼を座らせないように全員で協力するイス取り鬼では、最初は数秒で座られていた学年もお互いに作戦を出し合って実践し、数分間にわたって座らせないことに成功していました。また、3人1組でチームを組んでセリフの欠けている台本を埋め、別のチームがセリフの仕上がった台本を演じるワークでは、客席通路の手すりを屋上の柵に見立てるチームや、舞台上を鑑賞席にして客席で演技するチームなど見せ方にも工夫が光り、見学した先生からはワークショップの手法を習いたいという声もありました。

その他の地域でも、ホールの活用や地元の大学と連携した取り組み、地元で演劇活動をしている方へのワークショップ体験などが実施されます。今年度より新規アーティストも各地へ派遣しておりますので、興味のある方はぜひご視察ください。

●令和6年度リージョナルシアター事業 (参加団体/派遣アーティスト)

- 愛知県知多市(知多市勤労文化会館運営共同事業体/樋口ミユ)
- 三重県四日市市((公財)四日市市文化まちづくり財団/志賀亮史)
- 大阪府豊中市(JCD・日本管財・大阪共立グループ/有門正太郎)
- 兵庫県西宮市((公財)西宮市文化振興財団/ごまのはえ)
- 鳥取県((公財)鳥取県文化振興財団/福田修志)
- 島根県安来市(AJ共同事業体/越智良江)
- 香川県丸亀市((公財)丸亀市福祉事業団/多田淳之介)
- 熊本県宇土市(NPO法人宇土の文化を考える市民の会/田上豊)

◎アドバイザー

- 内藤裕敬(劇作家・演出家、南河内万歳一座座長)
- 岩崎正裕(劇作家・演出家、劇団太陽族代表)

◎派遣アーティスト情報



https://www.jafra.or.jp/system/artists/index?genre=301®istered_year=2024

◎問い合わせ

芸術環境部 藤原・田中
Tel. 03-5573-4124



1: 勤労青少年ホーム(兵庫県西宮市)で実施した「まちがく」受講生へのワークショップの様子/2: 島田小学校(島根県安来市)で実施したアウトリーチの様子/3: 宇土市民会館(熊本県宇土市)で鶴城中学校の生徒に実施したワークショップの様子

財団からのお知らせ

当財団では地方公共団体等が設置した文化施設の運営状況等を把握することを目的に、5年ごとに地方公共団体、公立文化施設を対象とした「地域の公立文化施設実態調査」を実施しています。

調査結果は、当財団の今後の事業実施や関係諸機関への情報共有等に有効に活用させていただくとともに、各地方公共団体・公立文化施設の文化・芸術を通じた地域づくりに

8月下旬より各都道府県、政令指定都市へ調査票等を順次送付します。本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようよろしくお願い申し上げます。

地方公共団体調査票(表紙) 施設調査票(表紙)

6 | 地域創造レター | No.352 2024.8.25

▼ 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

地域通信

●地域通信欄掲載情報について
最新の情報は主催者の発表情報をご確認ください。

●データの見方
情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示してあるのは開催地です。📍マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

●地域ブロック
[北海道・東北]北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
[関東]茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
[北陸・中部]新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
[近畿]三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
[中国・四国]鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知
[九州・沖縄]福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

●情報提供先
ファックス、電話、e-mailでお願いします。
Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4066
letter@jafra.or.jp
地域創造情報担当 和田・今野

●2024年11月号情報締切
9月19日(木)

●2024年11月号掲載対象情報
2024年11月～25年2月に開催もしくは募集されるもの

北海道・東北

●宮城県七ヶ浜町

七ヶ浜国際村事業協会
〒985-0803 宮城郡七ヶ浜町
花瀬浜字大山1-1
Tel. 022-357-5931 佐藤渉
<https://www.shichigahama.com/ko-kusai/>

仲道郁代 プレミアム室内楽シリーズ in 七ヶ浜

開館以来、コンサートでの毎年
の訪問や、中学生のための芸術
鑑賞事業、小学校でのアウトリー
チ活動を行い、2018年度に「しち
がはま文化大使」に任命された仲
道郁代が気鋭の弦楽奏者と音楽
の真髄に迫る演奏会。2024年か
ら2027年にかけて年1回、全4回
にわたるシリーズ公演が予定され
ており、第1回となる今回のテー
マは「シューベルトの心の声を聴く」。
仙台フィルハーモニー管弦
楽団メンバーと共演する。

[日程]9月8日
[会場]七ヶ浜国際村ホール

●秋田県秋田市

秋田県立美術館
〒010-0001 秋田市中通1-4-2
Tel. 018-853-8686 小泉俊貴
<https://www.akita-museum-of-art.jp/>

平野政吉コレクション 絵画のなかの「街」

生涯をかけて美術品を収集した
秋田の資産家・平野政吉(1895
～1989)のコレクションの中か
ら、「街」が描かれた作品を展
観。各地の名所や身近な風景、
人々の生活の様子を描いた作品
など、画家たちがとらえた生活
の舞台としての街に着目し、ル
イジ・ダ・リオスの《水を汲む少女
(ベニス)》をはじめ、国内外の
画家が街を描いた名品を見るこ
とができる。9月14日には学芸員
によるギャラリートークも開催。
[日程]7月6日～9月29日
[会場]秋田県立美術館(平野政
吉コレクション)

関東

●茨城県笠間市

茨城県陶芸美術館
〒309-1611 笠間市笠間2345
Tel. 0296-70-0011 塚田巧
<https://www.tougei.museum.ibk.ed.jp/>

タクミのセラミック・トラベル

陶芸の表現の多様さを日々膨張
を続ける宇宙になぞらえ、オリ
ジナルキャラクターの新人スペ
ースガイド「タクミ」とともにパス
ポートをイメージしたセルフガイ
ドにスタンプを捺しながら“やき
もの銀河”を旅する企画展。風
の星、クリーチャー星などテーマ
を設け、風や流れを感じる作品、
生物をイメージする作品など、バ
ラエティに富んだ作品約80点を
展示する。

[日程]7月27日～9月23日
[会場]茨城県陶芸美術館



展示の様子

●栃木県栃木市

栃木市立美術館
〒328-0016 栃木市入舟町7-26
Tel. 0282-25-5300 河野エリ
<https://www.city.tochigi.lg.jp/site/museum-tcam/>

夏にたのしむ器 竹のかたち×陶のいろ

栃木市ゆかりの作家の作品を
所蔵し、なかでも竹工芸がコレ
クションの特色である栃木市立
美術館がお届けする、同館なら
では夏の企画展。竹工芸と陶
芸の2部構成となっており、特に
竹工芸の展示室では作品の展
示位置にこだわり、まるで竹林
の中を散歩しているような涼や
かさが感じられる工夫がなされ

ている。また、壁面に草花の絵
画を展示することにより、作品の
「器」らしさが際立つ展示が実現
している。

[日程]7月13日～9月23日
[会場]栃木市立美術館

●川崎市

かわさき人形劇まつり実行委員会
〒213-0014 川崎市高津区新
作1-19-1
Tel. 044-888-3131 企画担当
<https://www.kawasaki-shiminplaza.jp/>

第36回人形劇まつり in 川崎 市民プラザ

プロ6劇団、アマチュア22団
体が参加する関東最大級の人
形劇まつり。川崎市民プラザ内
の各会場で、人形劇団 ひとみ
座『クルクルリンシャンボンボ
リン』、劇団 にんぎょう畑『いな
ばの白うさぎ』ほか約30にのぼ
る演目が上演される。当日は子
どもも楽しめる人形劇団による
ワークショップも同時開催。粘
土の型あそびやウレタン人形づ
くり、バルーン人形づくりが楽
しめる。
[日程]9月22日
[会場]川崎市民プラザ

北陸・中部

●新潟県妙高市

妙高文化振興事業団
〒944-0046 妙高市上町9-2
Tel. 0255-72-9411 大野雅季
<https://myoko-bunka.jp/>

MYOKO SKOOL vol.7 『喪服のテルプシコラー』

ダンス研究者の越智雄磨と企
画するダンスイベント「MYOKO
SKOOL」。シリーズ7年目の今
回は、世界的な注目を集める新
進気鋭のダンサー・中間アヤカ
を招聘。全6日間の日程で、公
募するキャストと共にダンス作
品『喪服のテルプシコラー』を創
作して、最終日にメインプログラ
ムとして上演。中間と越智による

ポスト・パフォーマンス・トークも開催する。
[日程] 9月22日
[会場] 妙高市文化ホール

●富山県黒部市

黒部市美術館

〒938-0041 黒部市堀切1035
(黒部市総合公園内)

Tel. 0765-52-5011 尺戸智佳子
<https://kurobe-city-art-museum.jp/>

黒部市美術館開館30周年 「たねをとばす」

開館30周年を記念し、さまざまな「もの/こと」の発生の源としての「たね/アート」の可能性と、それらを取り巻く有機的なつながりをテーマにした展覧会を実施。コレクションおよび地域ゆかりの8名の作家作品のうち、植物をテーマにした作品を展示する。期間中は岡本健児、佐々木類、佐直麻里子、森田志宝によるアーティストトークや、ハー

ブティを飲みながら植物を描くワークショップも実施する。
[日程] 7月20日～10月6日
[会場] 黒部市美術館

●岐阜県岐阜市

岐阜県美術館

〒500-8368 岐阜市宇佐4-1-22
Tel. 058-271-1313 青山訓子
<https://kenbi.pref.gifu.lg.jp/>

菅原道真公1125年 太宰府天満宮式年大祭記念 「神戸智行一千年を描く」

菅原道真が太宰府天満宮に祀られて1125年を迎える2027年に、岐阜市出身の日本画家・神戸智行が10年の歳月をかけて描いた24面の襖絵が奉納されるのを記念し、襖絵の原画および太宰府天満宮コレクションと岐阜県美術館の所蔵品を併せて紹介する特別展。奉納される襖絵からは、森羅万象や四季の自然を見つめ描き出された神戸作

品の世界を楽しむことができる。
[日程] 7月6日～9月8日
[会場] 岐阜県美術館



展示の様子

近畿

●滋賀県大津市

滋賀県立美術館

〒520-2122 大津市瀬田南大萱町1740-1

Tel. 077-543-2111 三宅敦大
<https://www.shigamuseum.jp/>

滋賀県立美術館開館40周年 記念「滋賀の家」

滋賀県の特徴的な地形により生まれたさまざまな暮らし方や住宅のかたちと、人々の暮らしを支える住宅産業にもフォーカスした、同館ならではの企画展。建築家やその作家性だけでなく、住宅産業自体を企画展の軸に置くことで、人々の色々な暮らしの形を感じることができる内容となっている。また、展示室の資料を鑑賞するだけでなく、美術館の前庭などにはこの企画展のために小屋や縁側が設置され、実際に中に入ったり、寝転んだり、体で感じられる展示となっている。

[日程] 7月13日～9月23日
[会場] 滋賀県立美術館

●大阪府河内長野市

河内長野市文化振興財団

〒586-0016 河内長野市西代町12-46

Tel. 0721-56-6100 相輪研二
<https://lovelyhall.com/>

奥河内音絵巻2024 vol.10 「日月山水と人々の歌」

音楽家のサキタハヂメが、奥河

内の自然、歴史、人々などから影響を受け、仲間たちと創り上げる音と光のタペストリー「奥河内音絵巻」。10周年を迎える今年は、市内の天野山金剛寺にある国宝「日月四季山水図」の世界を巨大立体アニメーションで舞台化する。出演者はプロアマ合わせ過去最多の200人規模で、ダンサーの北村成美が振付を担当。地元の吹奏楽団、市民オーケストラや地車(だんじり)の青年團は今回初参加となる。

[日程] 9月8日
[会場] 河内長野市立文化会館「ラブリールホール」

●兵庫県尼崎市

兵庫県立尼崎青少年創造劇場ピッコロシアター

〒661-0012 尼崎市南塚口町3-17-8

Tel. 06-6426-8088 新倉奈々子
<https://piccolo-theater.jp/>

兵庫県立ピッコロ劇団第80回公演 第8回「近松賞」受賞作品『宇宙に缶詰』

近松門左衛門と尼崎市のゆかりが深いことから、2000年に劇作家の紹介や育成等を目的に創設された「近松門左衛門賞」。肥田知浩による第8回受賞作品を、ピッコロ劇団が第80回公演・劇団設立30周年記念公演として舞台化。演出にSaring ROCK(突劇金魚)を迎え、ひとりの男の脳みそが丸ごと記録されたデータが、遠い宇宙に送られた小さな探査機に残ったまま、延々と男の記憶を思い返し続ける物語を演じる。

[日程] 9月14日～16日、18日
[会場] ピッコロシアター

中国・四国

●島根県浜田市

浜田市世界こども美術館

〒697-0016 浜田市野原町859-1

Topics

ネクストステージのための10講座 「アーティストカレッジ2024」

堺市文化振興財団では、地域や社会とつながり、ワークショップやアウトリーチ等のさまざまな企画を提案・実施できるアーティストの育成を目指して、「堺市新進アーティストバンク」を音楽、美術の2部門で運営し、登録者が自身の技術・表現・発想力をもとに将来的なキャリアの選択肢を広げるチャンスとなるよう、実践の機会と研修プログラムを提供しています。

これまでアーティストバンク登録者を対象にして実施してきた基礎講座をベースに、一般受講者にも開かれた講座「アーティストカレッジ」をより充実したラインナップで7月より開講中です。

今回のアーティストカレッジでは、音楽や美術にとどまらず、ダンスや演劇など他ジャンルのワークショップ講座、現場とアーティストを繋ぐコーディネーターの視点やアウトリーチについて体系的に知る講座など、実践に役立つ体験やレクチャーとなっています。加えて、確定申告講座やチラシ作成講座、キャリア講座など、今後の活動を続けていく上で必要な知見を得られる内容までカバーした多彩な内容で展開しており、10月からは後期講座がスタートします。

[日程] 6月23日～9月29日(前半)

[会場] フェニーチェ堺

[問い合わせ] 堺市文化振興財団 Tel. 072-228-0880

<https://www.sakai-bunshin.com/event/artistcollege2024/>

▼ 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

Tel. 0855-23-8451 門千穂
<https://www.hamada-kodomo-art.com/>

海とあそぶアート展

現代アーティストたちが表現する“海”を見て、触って、発見しながら、自然の素晴らしさを感じ、世界中で問題視されている海の困りごとについて考えることができる展覧会。館内には浜田の子どもたちが制作した海の生き物も展示されているほか、8月1日から9月1日にはブラックライトで光る不思議な“海”の世界を体験できる作品「ハマビ海の中」が期間限定で登場する。

[日程] 7月13日～9月23日

[会場] 浜田市世界こども美術館

●広島県廿日市市

廿日市市芸術文化振興事業団
〒738-8509 廿日市市下平良1-11-1

Tel. 0829-20-0111 佐藤美穂
<https://www.hatsukaichi-csa.net/sakurapia/>

第22回さくらびあ神楽共演大会

毎年9月に開催している廿日市市を中心とした広島県西部にある神楽団による共演大会。舞台に神を迎えるための儀式舞から始まり、7団体が迫力ある演目を披露。演目は、「八岐大蛇」「戻り橋」「塵倫」「葛城山」「紅葉狩」「悪狐伝」「滝夜叉姫」。ロビーでは、神楽衣装や活動写真の展示のほか、カレンダーなどの神楽グッズの販売が行われる。

[日程] 9月22日

[会場] つかいち文化ホール ウッドワンさくらびあ



栗栖神楽団「八岐大蛇」

●山口県山口市

山口情報芸術センター[YCAM]
〒753-0075 山口市中国町7-7
Tel. 083-901-2222 渡邊朋也
<https://www.ycam.jp/>

meet the artist 2022成果発表 「中国町で逢いましょう」

市内の空き家を活用して一時的に文化施設を創出する、市民参加型のアートプロジェクト「meet the artist 2022:メディアとしての空間をつくる」の成果を紹介。アートの視点から空き家問題を考え、古民家をゆっくり解体しながらコロナ禍以降の文化施設や“場”の意義、記憶の継承について再考していく。会場では、古民家の一部を再現するほか、古材を活用したクリエイターによる二次創作や資料を展示し、関連イベントも多数開催する。

[日程] 9月13日～10月6日

[会場] 山口情報芸術センター[YCAM]



「meet the artist 2022」の舞台となった古民家の様子 撮影:谷康弘

●高知県高知市

高知県立美術館
〒781-8123 高知市高須353-2
Tel. 088-866-8000 中谷有里
<https://moak.jp/>

高知サマープロジェクト2024 「Color lab 色の実験室」

美術館を展覧会、舞台公演に次ぐ第3の場として地域に開く夏休み企画。6回目となる今年は、高知で活動する日本画家の越智明美をコーディネーターに招き、高知の海や山で採集できる素材を使った新しい絵具づくりの可能性を探る。岩絵の具の魅力を楽しめる作品展示や、土佐桜を使った絵具を塗る体験コー

ナーなどを展開し、高知の自然や身近にある色から、私たちを取り巻く世界に目を向ける。

[日程] 7月8日～9月14日

[会場] 高知県立美術館

九州・沖縄

●熊本市

熊本市現代美術館
〒860-0845 熊本市中央区上通町2-3
Tel. 096-278-7500 岩崎美千子
<https://www.camk.jp/>

ガラスの器と静物画 山野アンダーソン陽子と18人の画家

スウェーデン在住のガラス作家・山野アンダーソン陽子がつくったガラスの器を、18名の画家が静物画に描く「Glass Tableware in Still Life」プロジェクトをきっかけとして始まった展覧会。会場にはクリアーガラスの食器と、それらが多種多様な表現で描かれた絵画、画家のアトリエで撮影されたガラスの器の写真が並ぶ。作品がジャンルを飛び越えて関係しあい、さらに見る人が関係することで、新たな関係性が紡がれていく。

[日程] 7月13日～9月23日

[会場] 熊本市現代美術館

●宮崎県宮崎市

宮崎県立美術館
〒880-0031 宮崎市船塚3-210 (県総合文化公園内)
Tel. 0985-20-3792 手塚朱映
<https://www.miyazaki-archive.jp/bijutsu/>

令和6年度コレクション展第2期 「たのしむ美術館」

同美術館で毎年好評の夏の恒例企画である「たのしむ美術館」。新たな気づきにつながる問いかけや主体的に鑑賞できるようなヒントを提案するほか、元々は墨絵の作品に色を想像して塗り絵をしてみるコーナーや、複製画の額縁や照明を自分で変え

てみることにより作品の印象の違いを体験できるコーナーなど、大人も子どもも楽しめる参加型の展示をお届けする。各種鑑賞ツアーや、館内スタンプラリーなどのイベントも実施。

[日程] 7月9日～10月1日

[会場] 宮崎県立美術館

特集 アートプロジェクト・芸術祭

全国各地で開催されている多彩なアートプロジェクト、芸術祭等を紹介します。

※開催地の北から順に掲載。

☑は会場、🗺は問い合わせ先です。
(👉は地域創造助成事業)

●北海道白老町 9月7日～15日 飛生芸術祭 2024

飛生アートコミュニティでは「人と森とアートが共存する森づくり活動」を日常的に実施しており、森びらきを兼ねて開催する年に一度の芸術祭。旧飛生小学校の木造校舎と、校舎裏の森に展示された作品が公開される。期間中はアート展示のほか、ワークショップ体験、住民へのリサーチからつくられた朗読劇の上演なども実施する。

☑飛生アートコミュニティ

🗺飛生芸術祭実行委員会

hm@racka-sapporo.com



©Ryoichi Kawajiri

●仙台市 10月4日～6日

仙台クラシックフェスティバル 2024

今年で18回目を迎え、「せんくら」の愛称で親しまれる音楽フェスティバル。3施設8会場で1公

演45分～60分のコンサートを80公演開催し、朝から晩まで楽しむことができる。0歳児から入場できるコンサート、演奏家のトーク付き、参加型など、豊富なプログラムにより誰もが気軽にクラシック音楽を楽しむことができる3日間となる。

☑日立システムズホール仙台、太白区文化センター、仙台銀行ホール イズミティ21

☑仙台市市民文化事業団(せんくら事務局)
Tel. 022-727-1872

●山形県山形市 9月1日～16日 みちのくの芸術祭 山形ビエンナーレ2024

2014年以来6回目となる芸術祭。メイン会場が中心市街地から蔵王温泉街へと移る今回のテーマは「いのちをうたう」。西暦110年開湯といわれる蔵王温泉と、歌人である斎藤茂吉をはじめとする蔵王で生まれた芸術文化から大きなインスピレーションを得て、温泉地でのアート体験により心身の健康を回復する4つのプロジェクトが展開される。

☑蔵王温泉、東北芸術工科大学

☑東北芸術工科大学 山形ビエンナーレ事務局
Tel. 023-627-2218

●群馬県高崎市 9月28日～10月14日 第35回高崎音楽祭

今年で35回目を迎える恒例の音楽祭。昨年初めて実施され好評だった、ライブレストラン形式で公演を実施する「ダイニングノーツ」や、泣いたりぐずったりしても大丈夫な空間で0歳からオーケストラを楽しめる「高崎こどもコンサート」など、すべての年代の人々に向けて多彩なプログラムをお届けする。また、ジャズ界のレジェンド・渡辺貞夫が、大友直人が指揮する群馬交響楽

団と共演する。
☑高崎芸術劇場
☑高崎音楽祭委員会
Tel. 027-322-9195

●東京都足立区 10月6日 千住・人情芸術祭 1DAYパフォーマンス表現街

人と人との価値観や感情のやりとりを“人情”ととらえて実施する芸術祭。4回目となる「1DAYパフォーマンス表現街」は、江戸時代から人々の交流と文化の根付く場所であった東京都足立区「千住ほんちょう商店街(旧日光街道)」を舞台に、ジャンルや上手・下手を問わず出演者を公募することで、多様な表現者を受け止める。

☑千住ほんちょう商店街
☑「アートアクセスあだち 音まち千住の縁」事務局
Tel. 03-6806-1740



写真:大野隆介

●東京都豊島区 9月15日～29日 東京芸術祭 2024

毎年秋に池袋エリアを中心に開催している都市型総合芸術祭。9年目となる今年は「トランジット・ナウ～寄り道しよう、舞台の世界へ～」をテーマに、多彩な舞台芸術の上演や鑑賞の楽しみを広げるひろばの設置、ワークショップ等から成る「東京芸術祭プログラム」と、人材育成と教育普及の「東京芸術祭ファーム」の2本柱で展開する。

☑東京芸術劇場、GLOBAL RING THEATRE
☑東京芸術祭実行委員会

<https://tokyo-festival.jp/2024/>
(問い合わせフォーム)

●神奈川県逗子市 10月5日～27日 逗子アートフェスティバル2024

逗子に縁のあるアーティストが集まる参加型フェスティバル。多くの家族連れが参加する「池子の森の音楽祭」や、年齢・障害の有無にかかわらずすべての人が楽しめるダンスイベントがメインの「みんなでアート」などの企画に加え、今年は旧逗子高校にて世界最古の電子楽器テルミンを用いたインスタレーションなど、25のプログラムが展開される。

☑逗子市内各所
☑逗子アートフェスティバル実行委員会 Tel. 046-873-1111

●富山県富山市ほか 9月14日～10月20日 GO FOR KOGEI 2024 くらしと工芸、アートにおける 哲学的なもの

アルチザンやクラフトマン、デザイナー、アーティスト総勢37名による多様な工芸と隣接するアートを、岩瀬エリア(富山市)、東山エリア(金沢市)の2つのエリアで展開する。サイトスペシフィックな作品展示や体験を通じた“こと”としての工芸を紹介するなど、暮らしやまちに溶け込み、社会と関わりを持つ工芸の多様な価値を提示する。

☑富山県富山市(岩瀬エリア)、石川県金沢市(東山エリア)
☑GO FOR KOGEI事務局
info@goforkogei.com



東山エリア(石川県金沢市) ©金沢市

●長野県大町市 9月13日～11月4日(水曜定休) 北アルプス国際芸術祭2024

3年に1度開催されている芸術祭。今回は11の国と地域から36組のアーティストが参加し、信濃大町(大町市)を舞台に、人と自然が織り成す切れ味鋭い作品をお届けする。なかでも注目は、大町市内で衰退や後継者不足になりつつある産業等をアートを通して考えてもらおうと活動する、林業者たちで構成された団体である北アルプス林研グループの新作。そのほかにも、数百本の竹を使って地域の公民館を囲い込む作品を地元住民と協力してつくり上げる企画など、北アルプスの現在を“体感”できるさまざまなプログラムが計画されている。

☑長野県大町市ほか
☑北アルプス国際芸術祭実行委員会事務局
Tel. 0261-85-0133

●長野県御代田町 7月20日～9月16日 浅間国際フォトフェスティバル 2024 PHOTO MIYOTA

2018年から始まった、写真の楽しさを世界に発信するアートフォトの祭典。浅間山の裾野に広がる御代田の自然の中を散策しながら、屋内外に展開される作品を五感で楽しむことができる。参加型のプロジェクトやワークショップも開催され、町や来場者が共創していく余白のあるフェスティバルを目指す。

☑MMoP(御代田写真美術館)
☑浅間国際フォトフェスティバル2024 PHOTO MIYOTA実行委員会 Tel. 0267-32-3112

●三重県亀山市 10月27日～11月16日 亀山トリエンナーレ2024 東海道の宿場町である亀山市で開催されている現代美術の祭

▼— 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

典。店舗や空き店舗、民家、公園、文化財建造物などが展示会場となり、今年は国内外より81組のアーティストが参加予定。新人発掘や国際交流に力点が置かれ、展示作品は、インスタレーション、映像、立体、平面、パフォーマンス、ワークショップなどと幅広い。

☑加藤家屋敷、東町商店街ほか
市内各所

☑亀山トリエンナーレ事務局
Tel. 0595-82-4125

●京都市 10月5日～27日

KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭 2024

2010年より毎年開催されており、今年で15回目を迎える京都発の国際舞台芸術祭。今回は「えーっと、えーっと」をキーワードに、多様な人々と舞台芸術の出会いと対話が可能になるフェスティバルをお届けする。リサーチプログラム、上演プログラム、エクスチェンジプログラムの3つのプログラムが予定されており、誰もが何かを得られるような、どの分野に興味がある人でも新たな発見を楽しめる構成となっている。

☑ロームシアター京都、京都芸術センター、京都芸術劇場 春秋座、THEATRE E9 KYOTO、京都府立府民ホール“アルティ”ほか
☑京都国際舞台芸術祭実行委員会 Tel. 075-213-5839

●神戸市 8月24日～11月24日

神戸六甲ミーツ・アート2024 beyond

六甲山で毎年開催される現代アートの芸術祭。15回目を迎える今年のテーマは「新しい視界 Find new perspectives.」。今回は国内外から過去最多の61組のアーティストが参加する。ROKKO森の音ミュージアムや六甲高山植物園など六甲山のさま

ざまな魅力が感じられるエリアで作品を展示するほか、昨年新たに会場となったトレイルエリアがさらに拡張するなど規模を拡大して行われる。

☑ROKKO森の音ミュージアムほか
☑神戸六甲ミーツ・アート事務局
Tel. 078-891-0048



佐藤圭一《じいちゃんの鼻の穴に宇宙があった。》(2023年) photo: junpei iwamoto

●兵庫県豊岡市、養父市、香美町、朝来市、宝塚市

9月6日～23日

豊岡演劇祭2024

劇場のほか、温泉街、海岸、高原、神社に設けられた農村舞台など、まちの至る所が舞台となる演劇祭。今年は新たに朝来市と宝塚市を加えた11のエリアで開催。平田オリザのセレクトによるディレクターズプログラムでは国内外から招聘される話題の作品のほか、平田作・演出による名作『転校生』をたじま児童劇団が熱演。ほかにも、公募で選ばれたフリンジ公演や市民参加劇、農村歌舞伎舞台でのオリジナル神楽など、約70団体のパフォーマンスが集結する。

☑豊岡市、養父市、香美町、朝来市、宝塚市の11エリア

☑豊岡演劇祭実行委員会
(事務局:豊岡市観光政策課)
Tel. 0796-21-9016



鳥丸ストロークロック×但東の人々『但東さ いさい』 ©igaki photo studio

●奈良県 10月23日～11月18日
奈良・町家の芸術祭はならあと
2024

奈良県内の歴史的な町並みや町家で現代芸術の展示会を開催する地域型アートプロジェクト。2011年からスタートし、今年で14年目を迎える。町並みの保存や町家の利活用促進、現代芸術を通じた新たな地域の価値の創出などを目標に掲げ、地元住民とアーティストが協力しながら、奈良県内各地でアートプロジェクトを展開する。

☑橿原・今井エリア、吉野町三茶屋・殿川エリア、天川村西部エリア、奈良市市原エリア

☑奈良・町家の芸術祭 HANAR ART 実行委員会
Tel. 090-9215-6847

●山口県宇部市

10月27日～12月22日

第30回 UBEビエンナーレ (現代日本彫刻展)

戦後の市民運動をきっかけとして1961年から2年に一度の開催を続け、「最も長く続いている野外彫刻展」としてギネス世界記録®に認定された野外彫刻の国際コンクール。30回目を迎える今年、一次審査で選ばれた入選模型のうち15点が、約10倍の大きさの野外彫刻となって、常盤湖を望むUBEビエンナーレ彫刻の丘に展示される。

☑UBEビエンナーレ彫刻の丘

☑UBEビエンナーレ事務局
Tel. 0836-34-8562

●岡山県津山市、新見市ほか

9月28日～11月24日

森の芸術祭 晴れの国・岡山

雄大な自然、歴史ある街並みなどの地域資源を数多く有する岡山県北部で始まる芸術祭。アートディレクターは金沢21世紀美術館長を務めるキュレーターの長谷川祐子。「本当に必要な資

本とは何か?」を問いかけ、国内外のアーティストやクリエイターが集まり、地域の人々と共に新しい“資本”をつくり上げる。森の恵みに満たされた県北地域が芸術のエネルギーを得て、人々の心や感性をリフレッシュさせる場に変容する。

☑岡山県内の12市町村

☑「森の芸術祭 晴れの国・岡山」実行委員会

<https://forestartfest-okayama.jp/contact/> (問い合わせフォーム)



真庭/蒜山エリアの展示会場周辺 (GREENable HIRUZEN)

©真庭市観光局

●大分県別府市

9月21日～24日

Art Fair Beppu 2024

世界有数の温泉地・別府市を舞台に、気鋭のアーティストが集うアートフェア。アーティストが会場に常駐することを最大の特徴としており、今年度は出展者数を64組に拡大して作品を展示・販売。現代アートから工芸まで多様なアートの魅力が発信され、見て、話して、アーティストと出会うことができる4日間となる。

☑別府国際観光港 旧フェリーさんふらわあ乗り場ほか

☑混浴温泉世界実行委員会事務局(NPO法人BEPPU PROJECT内) Tel. 0977-22-3560

▼—今月のレポート

財団の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げて
レポートします

愛知県長久手市 長久手市文化の家 「おんぱく2024～ 真夏のおんがく大 縁日～」



上:メインコンサートの様子
下:にぎわうギャラリーの総合受付

●おんぱく2024～真夏のおんがく大縁日～
[会期]2024年8月4日 10:30～16:30
[会場]長久手市文化の家 全館
[主催]おんぱく2024実行委員会、長久手市
※入場チケット1,500円(子ども500円)

*1 市の人口は61,345人、平均年齢41.5歳、年少人口(15歳未満)は17.0%(2024年8月1日現在)。就労人口の約1%(500～600人)がアーティストであると言われている。

*2 1998年7月15日に「長久手町文化の家」として開館。ホール施設(最大711席の森のホール、292席の風のホール)と、アートリビング施設(可動式小ホール、展示室、舞踊室、音楽スタジオ、食文化室、美術室、会議室、暗室等)で構成され、両施設を自由通路のギャラリーが繋いでいる。2012年1月の市制施行に伴って館名変更。管理運営は市くらし文化部生涯学習課(直営)。

*3 愛知県立芸術大学出身の若手演奏家を中心に2002年に発足。

*4 文化の家では地域人材を活用するため、若手アーティストに業務を委託する「創造スタッフ」制度を設けている(現在、音楽、美術、ダンス、演劇で計6名。期間3年)。その経験者から1名をフランチャイズアーティストとして契約(現在は橋寛憲さん)。全員がおんぱく実行委員となりアトラクションの企画・実施に携わる。また、文化の家の1年間の広報物(チラシ、ポスターなど)をデザインするデザイナーとして愛知県芸のデザイン課の学生を採用する制度もある。

愛知県長久手市は名古屋のベッドタウンとして人口が増加し、子育て世代の多い“日本一若い街”(*1)と言われる。そんな同市の総合文化施設・長久手市文化の家(*2)で、0歳から楽しめる「おんぱく2024～真夏のおんがく大縁日」が8月4日に開催された。

6月下旬から市内10カ所でまちなかコンサートを実施し、文化の家全館を使ったこの日の大縁日で締めくくり。大小さまざまなコンサートをはじめ、地元の栄徳高校吹奏楽部の協力によるマーチング体験、ダンスや造形ワークショップ、楽器体験、スタンプラリー、バックステージツアー、近隣のカフェや飲食店が出店した屋台など、アトラクションが満載だった。

ラストが森のホールのメインコンサートで、東京佼成ウインドオーケストラと地元および東海圏の演奏家による約60人の特別楽団が吹奏楽曲『鳳凰が舞う』、芳賀傑作曲の委嘱曲『おんぱく大縁日!!～楽器妖怪が通るゃんせ～』などを演奏。満席の会場に羽根と紙吹雪が舞うとお祭り気分は最高潮に達した。揃いのTシャツを着たボランティア(大学生約100人、文化の家フレンズ約20人)が支え、スタッフと出演者を合わせて300人近くが奔走。チケットは早々に完売。まちなかコンサートを含めて延べ3,274人が音楽祭を堪能した。



おんぱくがスタートしたのは今から20年前の2004年。ほぼ隔年で開催され、今回が10回目となる。当時事業担当だった生田創・現館長がギャラリーや小さな部屋がたくさんある館内を見た来館者に、「この施設は遊園地みたいにワクワクする空間ですね」と言われたのがきっかけで、「音のテーマパークのような企画ができないか」と思いついた。「地元には愛知県立芸術大学などもあり、卒業生の演奏家やアーティストもたくさん住んでいる。そうした地元の人の活躍の場にもなればと思った」と振り返る。

立ち上げは「楽器の動物園」として楽器体験とコンサートを実施したが、内容も運営も追いつかず迷走。翌年の愛知万博をきっかけに地域との繋がりも強くなり、愛知室内オーケスト

ラ(*3)の協力も得て、2007年には音楽博覧会＝おんぱくとして『ボレロ』をテーマに開催。以来、試行錯誤しながら、継続してきた(2016年から実行委員会方式に変更)。

おんぱくの企画の特徴は大きく3つ。①メインコンサートで演奏するテーマ曲から企画内容を膨らませること、②創造スタッフ・フランチャイズアーティスト(*4)など文化の家を拠点とする人材が中心となってプロデュースしていること、③テーマの世界観を重視したデザインに力を入れていること。

例えば、実行委員会のメンバーであり、今回のプロデューサーを務めた石川貴憲さん(愛知芸大出身のサクソフォン奏者)、また、空間デザインで多大な貢献をした橋寛憲さん(愛知芸大出身の造形作家)も創造スタッフからフランチャイズアーティストになった地元の逸材だ。

石川さんは、「今回は子どもたちにぜひ吹奏楽で有名な『鳳凰が舞う』にふれてもらいたいと思った。かなり高度な作品だが、子どもたちに親しみやすく、楽しめるようにと考えて『和物』『妖怪』『縁日』という要素を導き出し、みんなと相談していった」という。現役のフランチャイズアーティストである橋さんは、「おんぱくでは手を替え品を替え、子どもたちを楽しませたいと思っている。そのためには没入感が大事で、統一したイメージを打ち出す必要がある」と言い、石川さんの提案を受けて、「鳳凰の訪問を聞きつけた楽器たちが妖怪になって会いに来る」という物語をつくって実行委員に提示した。

これをベースに、実行委員会は、選曲や演奏家などを決める音楽部会、アトラクションを決める企画部会、館内装飾や工作ワークショップなどを担当する美術部会、広報部会などに分かれて約1年にわたって準備を重ね、手づくりの提灯や段ボールでできた社、楽器妖怪など、館内は1日限りの縁日仕様に生まれ変わった。

文化の家は来年1月から大規模改修による全館休館が予定されている。リニューアル後のオープニングがおんぱくとなる可能性もあり、休館中はさぞかしアイデア会議で盛り上がるのではないだろうか。(田中健夫)